

遠心力:当研究室の人材育成方針について

新研究室が始まって2か月が経ちました。当研究室の基本的な研究の方向性は、「胎動」としてホームページに載せていますので、そちらをご覧ください。まだここで伝えられるような研究上の成果はありませんが、新しいテーマを始めて日々プロジェクトと格闘している学生さんに若々しい力強さと限りない可能性を感じながら、研究教育者として充実した毎日を過ごしております。

ここでは、大学院進学や研究室配属を考えている学生諸君に向けて、当研究室の学生育成方針について述べたいと思います。当研究室の現在の人口分布は、完全なピラミッド型、つまりM1と4年生だけでほぼ半分を占める「発展途上国」型です。いや、これほどアンバランスな国は世界中どこにも無いでしょう。この極めて「青い」研究室を高いレベルでまとめ上げている、松永講師や生長助教、および博士課程の学生の方々の努力と緊張感には心から頭が下がる思いです。明らかなことは、現在の修士および学部4年生の若い学生さんたちの飛躍なくして、当研究室の発展、ひいては当研究室がある割合で担うことが責務である世界のサイエンスの発展の一端は無いということです。どうやったらこの若く才能あふれる世代を、3～5年後に大きく羽ばたかせることができるだろうか、私は最近このことばかりを考えております。

私自身は学生時代に所属した研究室で、多くの優れた先輩やスタッフの先生方との真剣な議論を通して最高の育成環境を与えてもらったと思っています。その経験から私見を言うと、研究室は踏み台(環境を与える場)だと考えています(踏まれて萎えているタマは当研究室にはいませんので、安心して踏んでください)。研究室は、基本的には出て行くところであって、帰って来るところではない。結局、高い意志を持って自分で育たなければ(自育)、強くはなれない。自分の研究哲学、判断規範(これはアリ、これはナシの基準)を研究室での議論を通じて自分で育ててください。この研究室には、誰もがいつでも真剣にディスカッションする用意と時間があります。将来、世界で勝負できる(自分の基準で判断する)研究者になってください。速成はいかん。先生がこう言うから、というのもいかん。土を耕し、種をまく。人を育てる。納得するまで何度でも繰り返す。これが、当研究室の人材育成方針です。

金井 求